

政策秘書を活用できる 政治家になるのが先決だ

辻元清美前代議士の事件で政策秘書の問題が大きくクローズアップされてきたのは周知の通りです。政策秘書に関しては国は政策づくりという観点で設置したのですから、少なくとも政策が語れる、法律が分かる、専門知識を持っている人を雇うべきでしょう。また、他の議員の秘書と兼任というのは論外だと思います。

政策秘書は特別職国家公務員


大島は当選してから今年1月まで政策秘書は採用しておりませんでした。今回始めて採用した政策秘書はイギリスの大学院で国際政治を専攻した後、帰国し、政策秘書の資格試験を受けて資格を取得しました。

1994年1月から導入された政策秘書は他の公設第一、第二秘書と同じ特別職国家公務員という位置づけです。給与水準は第一、第二秘書より高く、月額45万円から68万円が支払われます。誤解されている方もいるかもしれませんが、あえて強調しておく、公設の秘書の採用は、衆議院事務局への届出が必要で、つまり政策秘書の採用の届出をしていなければ、その分の給料が支払われることはありません。1年半の間、政策秘書を雇わなかった大島は、その分の税金(約1300万円)を使わなかったということにもなります。制度を遵守していれば政治家本人に秘書給与が渡ることはありません。

政治にパンチ!!

衆議院議員 大島あつし

国会レポート



発行：大島あつし事務所
埼玉事務所 〒363-0021
桶川市泉2の11の32
FAX:048-789-2117

2002年4月号 (上尾市・桶川市・北本市
鴻巣市・吹上町・伊奈町)

1年半政策秘書を置かなかった理由

大島はなぜ当選してから1年半もの間、政策秘書を置かなかったのか。大島自身が描く政策のイメージを、その専門知識と努力によってきちんとした具体的な政策に創り上げる実力がなくてはなりません。大島にとってベストの秘書を探していたのですが、すぐには見つからなかったということです。

また、国会での質問、政策立案は、国会議員の本質的な任務です。文献・資料集め、官僚からの事情聴取、関係者との意見交換など、すべてを人任せにせず自分自身でやるのが、まず新人議員にとって必要と考えました。納得できる仕事のためには、細部を知ることが大切なのです。

政治家自身が政策に精通すべし

大島は当選後1年半の間に590分もの質問を行いました。この質問時間は民主党の同僚議員の約2倍です。

国会議員が国会で質問する意味は、第一に法律の解釈論を十分に詰めるということ、第二に政府あるいは行政の行為をチェックすることです。したがって、とりわけ野党議員にとっては必須のことだと言え、質問時間が多ければ多いほど議員として仕事をしているということにほかなりません。

質問をつくるには非常に手間がかかります。

さいたま
永田町情報

大島議員質問
衆議院労働委員会
このほど開かれ、民主党の大島敦氏(6区)が質疑に立った。大島氏はBSE(牛海綿状脳症)対策に関連して、「農場から食卓まで牛肉の流れを管理する仕組みの導入を農水省が検討しているが、実現できるか」と質問したのに対し、坂口厚労相は「戸籍がはっきりし、それなりの意味があるが、(厚労)と(農水)後にははっきりしない」との認識を示した。

BSE対策で

大島氏はまた「今回の事態のように表示がごまかされればどうしようもない。食品不正表示は縦割り行政にも原因がある。法律と行政を一本化した食品安全庁の設置が必要」とたまたした。これに坂口厚労相は「一カ所の行政で扱うのも大事なが、普段から横割りの考え方で連携を密にしていかなければならない」と答えた。

例えば、昨年、KSD事件(注)がありました、その質問のために、大島は、東京錦糸町にあるKSD会館に出向いたほか、諏訪や軽井沢など関連施設にも実際に行き調査しました。資料を読むだけでは不十分なので、現場に行き手がかりをつかむ努力をしたのです。そうすると本当に手間と時間がかかりますが、そのお陰で事件の核心をつかむことができ、ポイントを突いた質問につながったのでした。

質問の準備に時間と手間を掛けた分、地元での会合に出席したり、支援者に会うための時間は減りました。国会議員として徹底的に働いてくれという有権者の要望に応えたからですが、その結果、大島自身、政策とはどのように創っていけばいいかということをおぼろげに知ることができたのでした。

官僚に依存しすぎる与党政治家

官僚に依存しすぎても政治家は考えなくなります。今の与党のおかしいところもまさにそこで、与党であれば官僚が資料集めから政策づくりまですべて手取り足取りお膳立てしてくれるという実態が少なからず見受けられます。だから、与党の政治家は自分で何も考えなくなる人が多いように思うのですが、政治家として物事を考えなくなるのは最も恐ろしいことです。やはり自分で調べて動いたほうが、物事を理解しやすくなり、考えるようになっていくのです。

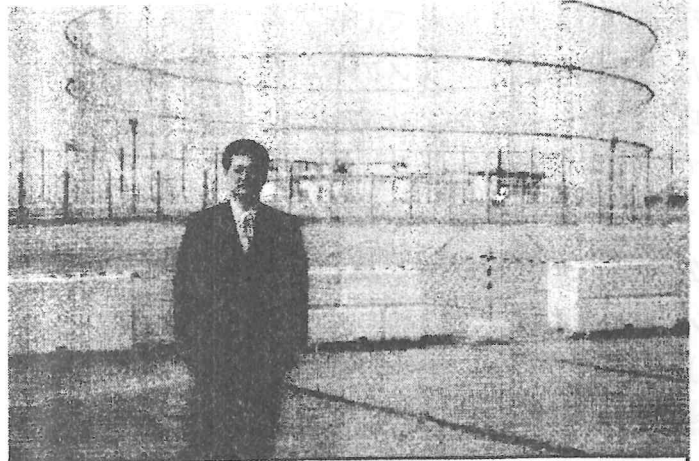
大島が1年半の間、政策秘書を置かなかったことは結果的によかったと思います。大島は自分で現場に飛び、法案を読み込み、そして質問するということを何回もすることによって政治家としての自信を深めていったのでした。そして、今年に入って政策秘書に来てもらったのですが、政策秘書がいなかった1年半の経験と政策秘書の持つ専門知識も十分活用して、大島の考え方をしっかりと反映した、大島らしい政策づくりに取り組んでいこうと考えています。

お金が足りない、秘書が足りないと不満ばかり言う議員もいますが、そんな暇があったら、議員自身がまず動いてみて、議員にとって本当

に何が大切なのかをつかむことが大事だと思っています。

注)KSD 事件とは

厚生労働省所管の公益法人であるケーエスデー中小企業経営者福祉事業団(KSD)の前理事長が、全国の中小企業経営者から集めた巨額資金を私的に流用したとされ、2000年11月に逮捕された事件。さらに、同理事長から元参院議員2人に計3400万円余の賄賂が提供されたとして、2人の元参院議員も昨年1月と3月に相次いで逮捕された。前理事長に対しては、今年3月26日に東京地裁で懲役3年執行猶予5年の判決が出ている。



沖縄読谷村にある米軍の礎辺通信所(「像の檻」と呼称される)を背にした大島あつし

地主から聞き取り

民主調査団 鈴木氏疑惑で来県

民主党の「鈴木宗男等
・沖縄関係疑惑解明チー
ム」第一陣が十七日、三日間の日程で沖縄入りした。鈴木議員が関係する
県内の疑惑概要や事実関係
を調査することが目的
て政治献金をしていた問
た。

民主調査団は、鈴木氏の政治資金管理団体「二十一世紀政策研究会」の二〇〇〇年収支報告書に個人献金者として記載されている読谷村内の軍用地主十人の自宅を訪問した。

題に関して読谷村内の地主十人の自宅を個別に訪問した。

《プロフィール》
昭和三十一年生まれ四十五歳／早稲田大学法学部卒業／日本鋼管株式会社・ソニー関連企業に勤務／民主党衆議院小選挙区候補者公募に合格
／衆議院厚生労働委員会委員